質問にお答えします Question Answer

池戸宏光

「全国安全週間」スローガンの変遷と労働災害の推移

問　7月1日から7日まで全国安全週間が展開されますが、この機会に、スローガンの変遷と愛知県における労働災害の推移について教えていただければ幸いです。

答　全国安全週間は、昭和3年「一致協力して怪我や病気を追拂ひませう」の中央標語のもと初めて全国一斉に実施されて以来、「人命尊重」という崇高な基本理念の下、「産業界での自主的な労働災害防止活動を推進し、安全意識の高揚と安全活動の定着を図ること」を目的に、一度も中断することなく続けられ、本年で88回目を迎えます。

さて、愛知県における労働災害の推移とスローガンの変遷ですが、

①労働災害の統計が公表されたのは、昭和25年からですが、昭和30～40年代は、労働災害が最も多発した時代であり、年間の死亡災害200人以上、休業8日以上の災害（昭和52年から休業4日以上の統計）2万人以上で推移、過去最多の死亡災害は、319人（昭和45年）休業災害は、31、956人（昭和36年）となっています。

スローガンには、「設備・環境の点検整備と作業の安全」に注目したものが多く、〝設備・作業の安全化と環境の整備をすすめ　けがのない明るい職場をつくろう〟（昭和45年）などがあります。

②昭和50～60年代の労働災害は、死亡災害100人台、休業災害1万人台で推移しています。

スローガンには、目標的なものが多く、〝災害ゼロはみんなのねがい　徹底させよう職場に安全を！〟（昭和56年）などがあります。

③平成に入ってからの労働災害は、死亡災害が初めて100人を切り92人（平成12年）から過去最少の49人（平成24年）休業災害が初めて1万人を切り9922人（平成7年）から過去最少の6188人（平成21年）となっています。

スローガンには、安全文化、リスクアセスメントが登場し、〝災害ゼロから危険ゼロへ　みんなで築こう新しい安全文化〟（平成12年）、〝みんなで進めようリスクアセスメント　めざそう職場の安全・安心〟（平成22年）などがあります。

スローガンには、その時代の状況・課題に応じた内容・思いが色濃く反映され、その変遷はまさに〝セーフティ・ヒストリー〟でもあります。スローガンの下、労働災害防止への情熱と不断の努力を積み重ねてきた先人・諸先輩の成果の上に現在があることにあらためて思いを至し、敬意を表するとともに安全の重要性、その心を日々の活動を通じ次につなげていくことが大切なことではないでしょうか。

なお、第1回以降これまでのスローガンは、中央労働災害防止協会のホームページ（全国安全週間）に掲載されていますので、是非、ご覧いただければと思います。

（一般社団法人名北労働基準協会　副会長）

タイトル・浅井健史

第88回全国安全週間スローガン

危険見つけてみんなで改善　意識高めて安全職場

主唱　厚生労働省・中央労働災害防止協会